

里だより

No.398

令和7年3月1日

一発行一

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



生活介護班⑤班外出
阿蘇・西原村方面
&
ゆめタウン光の森

いきいきグループ
お弁当会

三月号もくじ

施設長より……………1

サビ管より……………2

主任より……………3

職員より・医務より……………4

行事報告……………5

研修報告……………6

行事予定・

ありがとうございました

編集後記……………7



施設長より

節目



三年に一度の節目となる『障害福祉サービス等報酬改定』でスタートした令和六年度が終わろうとしています。スタートから三ヶ月程して、全国的に就労支援A型事業所の廃業・倒産が増え、約五千人の障害者の解雇・退職が相次いでいるというニュースが届いたのも記憶に新しいのではないのでしょうか。福祉業界に携わるものであれば衝撃的な内容でした。生産性を確保できない事業所は、収入も減少し経営を圧迫することになるためです。当然のことながら、福祉は報酬と経営が密接な関係にあることを知らされる一年でした。当事業所も、生活介護事業では利用時間に応じた報酬単価となったため、サービス提供時間の見直しや延長支援などの確認を行い、現在利用されている方に不利益を生じないように心掛けてスタートしました。

この他、九月に第三者評価を受審、十月には県の指導監査がありました。簡潔に説明しますと、指導監査は法令が定める最低基準を満たしているか確認されるものであり、第三者評価は利用者支援に於いてサービスの質の向上が成されているかを評価するものです。近々、結果も出ますので、修正・改善が必要なものを取り組んでまいります。

さて、福祉を学ぶ際、障がいの種類や特徴などのほかに、人の生活に携わるため、出生から死までの人生への関わり方にも触れます。実際、利用者さんの人生の節目に立ち会わせていただくことがあります。当事業所は成人の施設で高齢化も進んでいることから、その節目が、還暦や古希などの敬老のお祝いが

多くなりがちですが、今年は九年振りの成人のお祝いに関わらせていただきました。

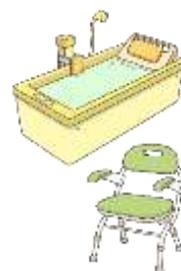
担当職員がお祝いの企画を立て、ご家族にもご協力いただき、ご本人さんに向けて手紙を書いてもらいました。大人っぽい洋服に身を包み、髪をセットしお化粧をした姿を見て、利用者さん・職員一同歓声を上げ、「おめでとう」の言葉に、本人さんも満面の笑顔で応え、嬉しそうに手を振って返されます。こんな瞬間に立ち会えるのは特別な感じですが、まだ二年に満たないお付き合いなのに、その姿を見ただけで涙する職員もいました。短い期間ですが、ご本人の頑張りや変化・成長を感じ取れているからだと思います。ご家族からの手紙を職員が代読しましたが、当然こちらも涙、涙……。名前の由来、親の想いに、読みながら声が詰まります。それを知れることは職員にとっても財産だと思っています。

もう二十五年程前、定員を三十名から五十名に増やし、若い利用者さんを多く受け入れた時には成人式が数年続きました。当時は、町の成人式にも招待があつたので、ご本人さんのスーツをご家族に準備してもらい、担当職員が成人式会場まで引率をしていました。今でもご家族が言われます。「うちの子は、(職員の)○○さんに文化ホールに連れて行ってもらいましたね。うちの子が式典に出られるなんて思っていませんでした。嬉しかった」と。利用者さんの人生の節目と想いがちですが、ご家族にとっても人生の節目であることを支援者は忘れてはならないと思います。四半世紀過ぎて、この言葉を頂ける事に感謝です。これも、この仕事の醍醐味なのでしょう。

施設長 松永一博

サビ管より

福祉機器



例年にならない大寒波の襲来で、熊本でも大雪警報。積雪も多くの場所で見られ、外の気温は大津町でも連日氷点下を記録。昨年は、スプリンクラーの凍結破損で、利用者さんが集まって過ごすふれあいルームがプール状態となったことを思い出します。スプリンクラーの修繕と凍結防止対策を行い、今のところは大寒波の長期滞在による影響はないみたいです。

今年度、施設の設備整備の一つとして、入浴機器の導入を掲げていました。職場の環境改善、介護負担軽減を目的とした設備整備の一環です。利用者さんに合った機器であるかどうか、職員の介護負担に繋がるかどうかなど、検討課題も多く、沢山ある入浴機器から当事業所にマッチしたものを選ばなくてはなりません。安い買い物でもないため、購入して利用者さんに合わなかった、こういう機器の方が良かったという結果にならないよう、慎重に選定作業を続けてきました。

昨年の七月に、福岡県でケアテックス福岡専門セミナーという様々な福祉事業に関連した大規模な展示会に参加し、どんな入浴機器があるか、種類や性能の違いなど、業者の方と意見交換しながら実際に見て、触れて、説明を受けました。しかしながら、購入するにあたっては、見定める必要がある為、デモ機をお借りして、実際の入浴介助で使用しながら、何度も使用状況の確認と利用者さんの状況をヒアリングしました。会議で検

討を重ね、やっと一つの業者に絞り込むことが出来ました。業者との打ち合わせや補助金の申請などを経て、十二月に入浴機器の導入が終了し、現在、入浴介助の現場で使用しています。利用者さんからは「気持ちいい」「体が温まる」などの感想もいただいています。職員からは、介護負担が軽減され安全に入浴介助ができる、入浴時間の短縮に繋がったなどの話もあり効果も見られているようです。

一昔前は、入浴支援において利用者さんの体に触れて温かみのある入浴介助を基本としてきました。当時は利用者さんも職員も若かったため、入浴機器の導入はそこまで縁のない話でしたが、利用者さんの高齢化・重度化に伴い、入浴時のリスク管理や職員の介護負担がここ数年大きくなっていることも事実です。安全で快適な入浴ができるよう現状確認を行い、ソフト面の問題なのか、ハード面の問題なのか精査していく必要があります。デジタル化している現在、人の力だけではなく、機器の力が必要な場面も多々あります。人材不足がささやかれている中、福祉機器という文明を活用し補っていくこともこれからの福祉を考えていくうえでは重要なことかもしれません。福祉現場のICT化、福祉機器の活用が話題にのぼり特集を組まれている誌面を多く目にします。しかし、機器の力を借りても最終的には人と人との対人支援であることに変わりはありません。福祉機器やICTを取り入れたとしても、相手を思いやる温かみのある支援は忘れないでいきたいです。

支援係長 竹下 幸樹

主任より

「働く」ということ

学校を卒業し、二十歳で職に就き、早二十数年。最近、学生の実習を担当する立場にもなりましたので、改めて「働く」ということについて振り返ってみました。

私は、支援員として、また実習指導者として役割を任されています。「指導」という言葉は少し重たく聞こえ、任された責任を感じながらも、実習の受け入れが少しずつ増えていることで、モチベーションも多少上がり、足りない知識を補おうと励んでいるところです。

働き手、人材不足と言われる時代にあつて、実習生を受け入れることは、その後の求人・採用につながることから重要事項と言えます。現場実習の中で、実際の仕事内容や職場の雰囲気を感じ、自身が働く姿が、良いイメージとして浮かべば、実習受け入れ側としては嬉しいものです。

そこで学生さんが、就職先へどのようなことを求めているのかについて考えてみました。また離職、転職が多い時代、現に働く私たちも、職場に対し何を求め、何が求められているのでしょうか。

「働きやすさ」の目安とされる給料、人間関係、働く環境や条件でしょうか。もしくは、仕事内容、責任、承認などの「働きがい」といわれるものでしょうか。給料、人間関係などの「働きやすさ」は不満足を減らすことはできるが、満足には至らないと言われています。一方で「働きがい」は責任ある仕事



を任されている実感や、自分の仕事に対する承認、達成経験の中で成長を感じるなど、満足を増やすことができると思っています。職場として求められるのは「働きやすさ」と「働きがい」のバランスが取れている職場ではないかと思っています。

次に「働く」ことへのモチベーションについて考えてみました。私は、時々自身のモチベーションを「やる気なし」「仕方なく働く」「大切だから働く」「楽しいから働く」と四つの種類に分けて振り返ることがあります。もちろん「楽しく働く」ことが出来れば一番良いのですが、そうではない時もあります。モチベーションが低下しつつある時は、どうしたらその仕事が少しでも楽しくなるかを考えます。スマールステップで区切りをつけ、楽しみを挟んだり、これが終わったら〇〇をしようと思ったり。また、自分の気分を「やる気なし」と、あつさり見切った時は、いったん寝に入ったり、ランニングをして外の空気に触れたりします。

仕事へのモチベーション「働きがい」ということになりませんが、「働きがい」とは、環境や待遇という外発的動機でどうなるものではなく、自身で理屈つけた内発的動機が上がったり、下がったりもします。「どうせくだから」「くしても」とマインスの言動を重ねても「楽しく働く」ことは出来ません。

実習生の受け入れを控え、準備を進める中で、改めて自身の「働きがい」とは何かについて考え、つくしの里を実習先を選び、福祉を志す学生さんに、少しでも「楽しく働く」ことを実感していただければと考えています。

主任支援員 長渕 さくら

職員より

厳しい寒さが続いてきますが、日の出も徐々に早くなり鳥のさえずりも聞こえるなど、“春”ももうすぐといったところです。この前お正月を迎えたばかりなのに、あっという間に2ヶ月が過ぎました。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」とはいうものの、言葉と行動はなかなかついていけないようにも感じます。

毎日の生活においても「あれもしなきゃ」「これもしなきゃ」と慌ただしく行動しています。これでは3月もすぐに過ぎていきそうです。1日1日有意義に過ごしていきたいと思っはいますが果たしてどうなることか・・・。

(支援員 北島)



つくしの里に入職し、あっという間の9年だったように感じます・・・が、体は正直で、9年経つとガタガタで「腰痛い、肩こった」と、毎日悲鳴を上げています。利用者さんによく「肩凝ってるね。」「腰大丈夫ね。」と心配される日々です。昨年から今年にかけて、インフルエンザ感染症が流行し、利用者さんも職員も感染するという事態になりましたが、何故か感染しませんでした。体の外側はガタガタでも、内面は強かったんだと実感しました。健康で元気につくしの里で働いていく事が、今の私の目標です。

(支援員 山田)



医務より

令和6年度の健診がすべて終わりました。結果は、3月の面談の際にお渡しします。再検査の指示があった方の受診は終わっています。結果について、何かご質問等ありましたらいつでもご連絡ください。

今年度(4月～1月末まで)施設での感染症の流行は、7月中旬～新型コロナウイルス、11月中旬～上気道炎などの風邪、12月下旬～インフルエンザA型。感染対策には十分に気を配っていますが、どの感染症も一人出してしまうと、数日のうちにあっという間に広がっていきました。見えない敵との戦いに負けた気分です。12月に職員向けの保健講話の中で、実技を交えながら吐物処理の方法を教わりました。エプロンなど防護具の着脱の仕方・吐物処理時の注意点など色々と指摘を受けて、不十分どころが目に見えて分かり、すぐにでも感染対策に取り入れていきます。感染症を完全に防ぐのは難しいことですが、広がらないような対策は続けていきたいと思っはいます。

(看護師 松村)



行事報告

※ 1/21 (火) ~2/20 (木) の実施分について報告いたします

★ 生活介護班⑤班外出【1月22日(水) 菊陽町・阿蘇市、西原村】

利用者さんの希望や体力面を考慮して、初めてグループに分かれて外出を行いました。男性が主力の①グループは、西原村の「やまの囲炉」での食事や、白糸の滝、赤水蛇石神社の見学に行きました。短い時間の中で充実した外出となり、利用者さんたちは楽しい時間を過ごすことができました。引率人数も適切で、滝に向かう行程では体力強化の必要性も感じられました。高齢の利用者さんが疲れている様子も見受けられましたが、無事に帰園できたことが何よりです。

女性が主力の②グループは、ゆめタウン光の森で食事と買い物を楽しみました。食事や買い物の際に利用者さんが自分で選ぶことができ、セルフレジもスムーズに利用できました。ただし、車椅子使用者の移動が課題としてあがってきたため、今回は異なる組み合わせを検討する必要があると感じました。

今回の外出を通じて、利用者さん達がそれぞれ楽しんでいる姿が見られ、大変嬉しく感じました。次回の外出計画の際には、今回の反省点を踏まえ、さらに充実した体験ができるように準備を進めてまいります。

(支援員 後藤)



★ いきいきグループイベント【2月18日(火) つくしの里】

今年度もあっという間に残りわずかとなりました。みなさん次年度のことが気になる様子ですが、一旦、少し早めのお疲れ様会ということで、熊本城に外出したメンバーでお弁当会を行いました。豪華な弁当を注文し、デザートには大きなケーキをいただきました。お肉増し増しのお弁当でしたが、あっという間に完食。思わず顔がほころぶ利用者さんもいらっしゃいました。事前に食べたい物をそれぞれ選んでいただき、「お肉がいっぱい入っているのが良か!」と言われる方もいれば、「サラダが付いたハンバーグ弁当の方がいいかな?」と、ヘルシー志向の方もいらっしゃって、新たな一面が垣間見えたような気がします。カフェで流れるようなおしゃれな音楽を流し、ゆったりと過ごす事が出来ました。利用者さん、職員共に幸せな時間となりました。

(支援員 尾崎ア)



研修報告

※ 1/21 (火) ~2/20 (木) の実施分について報告いたします

◆社会福祉法人会計実務研修会【1月28日(火) 熊本県医師会館】



主に指導監査に関する指摘事項、決算に必要な書類の説明がありました。昨年の10月につくしの里では指導監査が行われていたので、復習の意味で勉強になりました。他の事業所がどのような指摘を受けていたのか、改善策はどのようにしたらよいかなど今後役に立つ内容を学ぶことができました。これから年度末に向けて決算の準備が始まるので、今回の研修内容を活用していきたいと思います。(事務員 井手)

◆九州地区知的障害者福祉協会種別部会・合同研修会【2月5日(水)・6日(木) 宮崎観光ホテル】

1日目は「障害福祉サービス等報酬改定後の動きについて」、2日目には障害者支援施設部会で「障害者支援施設における終焉支援及び看取りの実践」「知的・発達障害者の健康な人生とはなにか～疾病予防、BCPから看取りまで～」というテーマの講義を受講しました。終焉支援についての他施設の取り組みについては、事前に本人やご家族と今後について話をする事が重要であるとの事でした。そのために大分市の「エンディングノート」を活用し、本人の基本的な情報や未来の話だけではなく、利用者の方の過去の話に耳を傾ける事で人生に寄り添う事が出来るというものでした。ノートのすべての項目を埋めるのではなく、埋められるところを埋め、意思の確認が難しい利用者さんには本人のことを理解する職員やご家族からお話を聞くことで、ノートを作成していくという内容で、ぜひ実践していきたいと思いました。どのような人生を送られ、今後どのようにになりたいのか本人にしかわからない部分が多いため、些細な事でも話をしていくことが重要であると思いました。終焉支援とは暗いものであると考えられがちですが、利用者さんが最期まで「ここで生活が出来て良かった」と後悔のないまま生涯を終えることができるよう、私たちにできる最善の支援を行いたいと思います。(支援員 瀬形)



施設PR委員会 今月の1枚!

珍しい冬の花火

きれいな花火に、夢中。

グループホームから

綺麗に見えました!



行事予定

☆ バイキング昼食会 (つくしの里)

期 日：3月6日(木)

内 容：カップ寿司・ミニラーメン・揚げ出し豆腐など居酒屋メニューを
お腹いっぱい食べたいと思います♪



☆ 面談・通帳確認 (つくしの里)

期 日：3月3日(月)～31日(月)

内 容：下期経過報告と支援計画原案作成に係る面談をさせていただきます。
日程については担当からご連絡いたします。



☆ 施設・後見人・家族情報交換会 (つくしの里 学習訓練棟)

期 日：3月29日(土) 10:00～14:00

内 容：次年度の事業計画等、午前中は全体会、午後は各班に分かれて交流会を行います。

＼ふれあう会メニュー／

- 🍷 鶏ごぼう炊き込みご飯
- 🍷 メンチカツ
- 🍷 そうめん汁
- 🍷 ゼリー



編集後記

令和六年度もあと残り一ヶ月。新年度に向けて慌ただしくはありますが、着々と準備を進めています。利用者さん四月からの体制が気になり、待ちきれない様子です。どんな年になるか楽しみです。



誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使わせて頂きます。



- 【寄付・寄贈】
- ・清田すま子 様
 - ・前原透 様
 - ・光永順子 様
 - ・お菓子の香梅西原工場 様
 - ・ボランテイア
 - ・村里和洋 様
 - ・木本ふじ子 様
 - ・古庄澄代 様
 - ・三上貴宏 様
 - ・カモメ 様

ありがとうございます
今月の掲載分は、
令和七年一月二十一日～
令和七年二月二十日です

※お詫びとおことわり
里だより担当では、毎月十分注意して、記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。

《女性風呂場》



《男性風呂場》



*「サビ管より」でお伝えした通り、今年度二台の入浴機器を導入しました。女性風呂場に車いす専用入浴機器。男性風呂場に個室で使用する入浴機器です。管理や、メンテナンスをしっかり行いながら、温かみのある支援をしていきます。